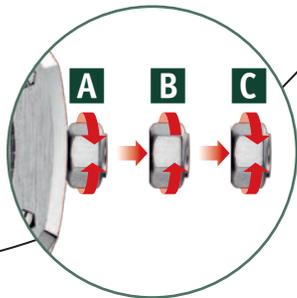


Instructions for use
Mode d'emploi

DAY-DATE

Calibre 2325/2810
Selfwinding

AP
AUDEMARS PIGUET
Le maître de l'horlogerie depuis 1875



日本語

使用説明書の目次はインタラクティブになっています(反対側ページ参照)。

読みたい項目のタイトルもしくはサブタイトルをクリックしてください。

目次に戻りたい場合は縦に配された白いインデックス「日本語」をクリックしてください。

1. イントロダクション 115ページ

オーデマ ピゲのマニュファクチュール

新型自動巻きキャリバー 2325/2810

2. この時計について 120ページ

基本ムーブメント

ムーブメントの技術仕様

特徴

時計の表示と機能

3. 基本的な機能 124ページ

時刻合わせ

ムーブメントの巻き上げ

日付修正

4. 備考 127ページ



オーデマ ピゲのマンユファクチュール

時計製造技術の発祥の地、ジュウ渓谷



ジュネーブの約 50km 北、スイス・ジュラ山脈の中に、今日までその自然の魅力を保っている地域、ジュウ渓谷があります。この山岳地帯は気候が厳しく、土壌も痩せていたため、この地に根を下ろした人々は 18 世紀の中頃に、農業以外の収入の道を探すことを考えました。コンピェと呼ばれたこの土地の人々は、手先の器用さと新しいものを創造する力、また不屈の精神を活かして、時計製造業へと発展していくことになりました。

こうして作られたムーブメントは質が高く、ジュネーブの企業に大変な好評をもって迎えられ、完全な時計に仕上げられたのでした。

1740 年以降、ジュウ渓谷のみで時計製造業は自立した産業として発展することができるようになりました。このとき以来、この地域は、ある年代記の 1881 年の項に記されているように、「急速に発展を遂げた桃源郷」へと変貌したのです。

偉大なる冒険に挑んだ2つの名前

1

1875年、複雑時計の製作に情熱を傾ける2人の若き天才時計職人、ジュール＝ルイ・オーデマとエドワール＝オーギュスト・ピゲが、高級時計産業が盛んな地、ジュウ渓谷で2つの才能を集結させ、複雑機構を搭載した時計を開発・製作しようと決意しました。2人の決意、想像力、そして規律の正しさは、ただちに成功を収めました。1885年ごろ2人はジュネーブに支店を構え、1889年のパリ万国博覧会の際には様々な超複雑懐中時計を発表して、新たな取り引き関係を広げます。オーデマ ピゲのマニュファクチュールは年々と発展を続け、例えば1892年には初めてのミニッツリピーター機能付きの腕時計、1915年にはそれまで実現されたことのない5分単位ミニッツリピーター機能を備えた最小ムーブメントを製作するなどして、高級時計産業の歴史を彩ってきました。

1918年からは、創設者の息子たちが事業を受け継いでいます。男性用、女性用の腕時計の製作に卓越した技術を発揮し、極薄の洗練された新しいムーブメントを作り出しています。1929年のウォール・ストリート株価大暴落によって厳しい経営を強いられるものの、粘り強さと信念を持ち続けることで、まずスケルトンと呼ばれる時計の製作を再び軌道に乗せ、その後クロノグラフ付き時計の製造に乗り出しました。しかし、この新しい勢いも、第二次



世界大戦によって突然中断を余儀なくされてしまいます。戦後は再編成をし、マニュファクチュールは、「伝統と革新」を追及しつつ、ハイエンドウォッチの製作に注力。そして特に、クリエイティブの斬新さという方針により、戦略は実を結んだのです。

国際的な成功を収めたオーデマ ピゲ は、1972年にステンレススティールを用いた世界初のラグジュアリースポーツウォッチとして発表され、発売と同時に大きな成功を収めたロイヤル オークの製作をはじめ、1986年に発表された世界初の自動巻きの極薄トゥールビヨン腕時計などの製作を続けてきました。以来、マニュファクチュールの創造のひらめきは衰えることなく、比類ないムーブメントを備えた独自の美しさを持つ時計を世に送り続けています。こうして80年代末には複雑時計のテイストをコンテンポラリーなものに一新し、1999年には見事なコレクション「トラディションオブエクセレンス」を発表します。オーデマ ピゲはこのシリーズの一環として、オーバルケースデザインのミレネリーのトラディション オブ エクセレンスNo.5を発表しました。この時計には、パワーリザーブ インジケーター機能、デットビートセコンド機能、垂直に配された永久カレンダーが備わっており、さらには潤滑油を必要とせずに革命的な高い効率で機能する新脱進機システムを搭載することにより、伝統に根付いた大胆なスピリットを実現しながら、未来をも約束しています。



新型自動巻きキャリバー2325/2810

キャリバー2325/2810は自動巻きです。手首の動きによって、時計が機能するのに必要なエネルギーが生じます。

このエネルギーは、21金製の回転錘に吸収され、歯車によってゼンマイに伝えられます。

スプリングが徐々にバレル軸に巻き付くことで、エネルギーが蓄積されます。蓄えられたエネルギーはコンスタントにムーブメントに供給されます。

時計を填めた方の運動量や生活習慣の違いにより、数時間から数日の範囲でパワー・リザーブが上限に達します。

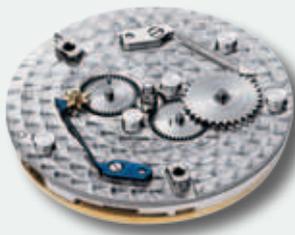
ムーブメント

キャリバー 2325/2810

ブリッジ側



ダイヤル側



ムーブメントの技術仕様

ムーブメントの厚さ: 4.60 mm

直径: 26.60 mm

振動数: 28'800 振動/時 (4 Hz)

石数: 31

パワーリザーブ (ミニマム): 約40時間

一方向回転の自動巻 (回転ダイヤル上でウォッチは時計回りに回ります。ダイヤルの側)

金、銅、カドミウム合金メッキの香箱 (ゴールドカラー)

変動慣性マスロット使用テンプ

平面スパイラル

可動ヒゲ持ち受け

部品数: 215個

特徴

時刻調整中は、テンプが停止 (秒針の停止)

注油不要のセラミック製ボールベアリング上にセットされた21K部分使用のローター

時計の表示と機能

(表紙の裏側にある図解参照)

- ① 時針
- ② 分針
- ③ 曜日を指す針
- ④ 日付表示針

この時計は2または3段階式のリューズを備えています。

- A** ねじ込まれた位置のリューズ (該当モデルのみ)
- B** 位置 手巻き
- C** 時刻合わせ、曜日・日付修正位置にあるリューズ

<注意> ロイヤルオークはモデルによっては、リューズを緩めて所定の位置に引き出すことが必要です。作業後は防水性を保証するために再び**(A)**位置までしっかりと締めてください。



時刻合わせ

リューズがねじ込み式のモデルの場合は必ず事前に反時計回りに回して緩ませます。

リューズをポジション **C** に引き出します。時刻合わせをする時はリューズを前後に回すことができます。合わせたい時刻まで慎重に針を進めながら、正確に時刻合わせをしてください。

注意: 日付の変更により午前12時と午後文字フォントが違います。時を間違えないようにしてください。

ムーブメントの巻き上げ

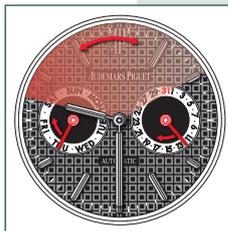
リューズがねじ込み式のモデルの場合は必ず事前に反時計回りに回して緩ませます。緩めるとリューズは自動的に **B** 位置にセットされます。

リューズを最低30回回転させて、時計を巻き上げます。その後は手首の動きにより、自動巻機構が時計の正常な作動を持続させます。

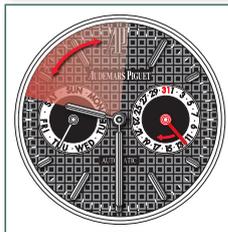
注意: 時計を腕に着けていない時、自動巻の巻き上げシステムは機能せず、時計は2日ほどで止まります。

曜日と日付の修正

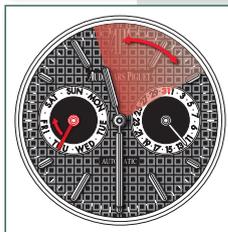
リューズがねじ込み式のモデルの場合は必ず事前に反時計回りに回して緩ませます。**曜日**と**日付**の表示が合っていない場合は、まずリューズを **C** の位置に引き出し、針が2時を指すまで時計回りに回します。



針を21時30分に合わせます。リューズを時計回りに回し、針を2時00分の位置まで進めます。リューズを反時計回りに回し、針を再び21時30分の位置まで戻し、必要なだけこの動作を繰り返します。**日付**と**曜日**を示す針は一往復で1日進みます。



日付のみ修正する場合: 針を21時30分に合わせ、時計回りに0時10分まで針を進めてください。この動作を必要な回数だけ繰り返します。



曜日のみ修正する場合: 針を23時30分に合わせ、時計回りに2時00分まで針を進めてください。この動作を必要な回数だけ繰り返します。

その後、リューズを **B** 位置(ねじ込み式リューズの場合は **A** 位置)まで戻してください。

保証とお手入れ

時計の保証、および推奨するお手入れ方法に関する全ての詳細な情報は、証明書および付属の保証書に記載されています。

